

(様式2)

平成 23 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1576400566		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホームせきかわ		
所在地	岩船郡関川村大字湯沢1826-2		
自己評価作成日	平成24年1月5日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=15
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成24年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

情報収集の様式には思い・意向シートと24時間シートに重点をおいて使用し、その人らしさの把握に努めるよう取組んでいる。
同一敷地内にケアハウスとヘルパーステーションがあり、緊急時や職員不足時に協力体制ができています。
法人内のグループホーム管理者や計画作成担当者が定期的に話合う機会がある。
村上・岩船地域のグループホームでも管理者意見交換会があり、職員の交流会も実施しサービスの質の向上に繋げている。
近隣の福祉施設と、災害時の連絡体制・ネットワークができています。
畑での野菜作り・草取り、食事準備・後片づけ、掃除・洗濯等できることを一緒にしている。
地域の行事に参加し、商店への買い物にその都度ご利用者と出かけている。
ケアハウスでのクラブ活動や訪問販売に、希望者がその都度出かけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居後も自宅にいた頃と同じ生活が継続して送れるように、法人独自のアセスメントツールを活用して利用者の情報把握に努めている。利用者の声に耳を傾け、利用者の思いに応えて馴染みの関係が継続できるように、管理者が中心となって職員で話し合いを行い支援している。
関川村直営の地域包括支援センターの職員とは常に連絡を取り合い、利用者の状況等の情報を共有している。他の事業所の職員からも運営推進会議に参加してもらって日頃から連携を図っており、災害時や重度化した際の利用者の対応等、協力し合える体制が整えられている。
地域住民との交流はあまり多くはないが、3年前から管理者が中心となって地区のクリーン作戦への参加や広報誌の回覧等、地域への働きかけを継続して行っている。平成24年度は地域消防団員からも参加してもらい防災訓練を行う予定である。地道に継続してきたこれまでの取り組みが少しずつ結果として現れはじめており、今後、地域の一員として定着し、さらに活動を展開していくことが期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を会議等で共有し、アセスメント・ケアプラン・評価につなげている。	「一人ひとりの生活リズムに合わせたケアの実践」 「利用者が地域の一人として意識できるような生活支援」を理念に掲げ、事務所に掲示している。 「24時間シート」や「思いを知るシート」というアセスメント表を活用して利用者への支援を検討し、理念に沿ったケアが実践できるように努め、毎日のミーティングや会議の中で振り返りを行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にはなるべく参加し地域との関わりを持つようにしている。今後も職員を始め(橋渡しとなり)より交流できるように働きかけが必要。	区長や民生委員から地域に関する情報収集等を行っており、地域行事や地区のクリーン作戦には3年前から継続して参加している。隣接するケアハウスに移動販売やボランティアが来たり、慰問活動がある際には利用者と訪問して交流を図っている。	今後はさらに区長や民生委員から情報を得て、地域の老人クラブ等の活動に参加するなどの積極的な取り組みにより、地域とのつながりが一層深まっていくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解は薄いように思う。地域の方が認知症の方への対応など気軽に相談できるような場となるようにしていきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な意見を頂きサービス向上に繋がったこともある。出来る限り実行するようにしている。	2ヶ月に1度、利用者・家族代表、区長や民生委員、地域包括支援センター職員、他事業所の職員等が参加して開催されている。会議を通じて他事業所と連携が図られており、また、地域の情報や様々な意見を得て、それらをサービス向上に反映させている。	運営推進会議の情報を開示することが望まれる。利用者や家族、地域住民がいつでも見られるように会議録の保管場所も含めて、開示方法の検討を期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と、入退居や利用者状況、状態変化等をその都度連絡している。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加しており、地域の福祉の状況についてアドバイスを受けることができています。市町村担当者とも事業所の様子や入退居状況について、日常的に連絡を行い情報交換している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室の窓など施錠することなく自由に出入りできるようにしている。また、ご家族にもその旨を伝え理解を得ている。	玄関や居室の窓は日中は施錠せず、自由に出入りできる環境にある。法人として身体拘束をしないケアを徹底しており、その方針を家族にも説明し理解してもらっている。言葉による抑制や行動を制限することも身体拘束の一つとして捉え、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、職員が禁止の対象となる具体的な行為をはじめ身体拘束に関しての理解を深めるために、定期的に学ぶ機会を持つことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する話し合いを会議等で行っている。	言葉による抑制や行動制限等、本人の意向に反することをすることも虐待の一つとして捉えており、職員全員で利用者に関わる姿勢を見直すため、会議の中で話し合いを行っている。	会議等で具体的な話し合いを行っているが、全職員が虐待に関する理解をさらに深められるよう、高齢者虐待防止法等、法令からも基本的な知識を学ぶための研修を定期的開催することが望まれる。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体で学ぶ機会がなかったため、今後取り組んでいきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金改定の時等、文章で通知している。他疑問点や不安があればその都度話合っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族から要望があればすぐに解決できるように配慮している。運営推進会議でも色々な意見・助言を頂いている。	家族からの要望の中で「身体を動かしてほしい」「縫物をさせてほしい」等の即実践できる意見については、都度迅速に対応している。面会時には管理者を中心に家族へ積極的に声をかけ、家族との関係づくりに努めている。	職員一人ひとりが家族と笑顔で受け答えをしているが、意見や要望を聞き取れないことも多い。今以上に家族が意見や要望を気軽に表出できるような関係づくりや方法・仕組みについて検討し、取り組んでいくことを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や普段の中で他職員に意見を聞き決定するまで話し合い改善していくよう努めている。	日頃から管理者は職員に声をかけ、意見を聴くように心がけている。普段のミーティングの中で出た意見をもとに会議の議題を決めており、スタッフルームの環境整備や正月料理として利用者にお餅を食べて頂くなどのサービスにつながった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や日々の仕事ぶりを考慮し、話合う時間を作っている。労働時間等を変更し環境改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修へ行けるよう配慮したり研修会の開催も計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修等で話合う場はある、交換研修を実施している。3ヶ月毎に地域の管理者意見交換会を実施している、年1回地域職員の交流会がある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと等その都度傾聴しながら安心して過して頂けるように努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られたり、電話をした時等、困っている事や要望を聞くなど関係づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を必要としているかを確認しながら、他のサービス利用も含め対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物に行ったり、行事に参加したり、一緒に食事作りもしてともに過している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	好きな食べ物や得意な事、不得意なことなど本人や家族から聞き、サービスにつなげている、日々の様子など面会時に話している。	ホームに入居しても家族の協力が重要であることを伝え、受診や外出・外泊の協力を得たり、3ヶ月に1度利用者の様子を家族に伝えて共有している。また、アセスメントシート(思いを知るシート)は家族にも記入してもらって情報収集している。これにより、家族が利用者について振り返る機会にもなっている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族にこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を聞き関係が途切れないよう連絡をとるなどして協力を得るようにしている	利用者の馴染みの場所へ出かけた時、そこで地域の方と交流をするなど関係継続を支援している。利用者との会話から把握した要望について、家族や以前利用していたサービス事業所からも情報を得て、支援につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	気の合う人同士を隣の席にしたり一緒に外出したり、 関わりあい、支え合えるような支援に努めている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	職員が様子を伺いに行き、ご家族に経過を伺うことも ある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を大切に、ケアを検討して いる。ご利用者の興味のある事や好きな事について、 ご本人から聞いている。	法人独自のアセスメントシートである「思いを知る シート」をもとに利用者や家族へ聞き取り等を行い、 意向の把握に努めている。	アセスメントシートの記載内容が、本人の思いや意向 を把握するには十分とは言えない。利用者の感想を記 載するだけでなく、利用者が「どんな生活をしたいの か」という意向を読み取る技術を高めるとともに、聞 き取り方法を工夫するなど、本人の意向を的確に把握 し共有するためのさらなる取り組みを期待したい。
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや、好みについて情報を集めて共有 している。	利用者一人ひとりの担当職員が中心となり、法人独 自のアセスメントシートである「思いを知るシート」 や「24時間シート」を活用して聞き取りをしている。 その聞き取りの中で、会話を広げ、設定された項目 以外の情報も収集している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	ご利用者が1日どのように過ごしたいのか、外出等、 心身状態に配慮しつつ、出来るだけ希望に沿った対応 をしている。しかし、全員の本当の希望には沿えてい ないと思う。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	一定期間で、アセスメント・モニタリングを行い見 直しを行なっている。担当職員一人の意見にならない ために、他職員など出来るだけ多くの人の視点を取り 入れている。	担当職員がアセスメント時に本人と家族の意向を確 認し、日々のミーティングの中で出された他の職員 の意見を取り入れて介護計画を作成している。毎月 モニタリングを行い、利用者の状態に合わせて随時 計画の見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを生活記録に残している。1日1日、 ミーティングの時間を設け日々のケアについて話し 合い共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のニーズに合わせて、ケアを見直したり、職員の動きや勤務時間を変えたりしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの関係が薄れないように友人宅へお連れしたり、美容室や買い物にお連れしたりして、出来るだけ支援するように心掛けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診しており、家族対応時には情報提供書をお渡しすることある。状況に応じて職員対応をすることもあり、受診結果はご家族と共有している。	利用者・家族が希望するかかりつけ医への受診としている。受診には家族の付添いを基本としているが、状況に応じて職員が付き添う場合もある。受診時には「情報伝達提供表」を活用して主治医に情報提供し、受診結果は家族と共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員からその都度状態報告と指示を受け、かかりつけ医師や協力病院の医師とも連携し指示を仰ぐようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族から情報提供をして頂き、職員間で共有している。病院相談員とは随時連携をとるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族に方針を説明し、状態に変化が現れた際、その都度ご家族と話し合いを行い、重度化への対応について話合っている	入居時及び状態変化があった際には家族に事業所の指針を説明し話し合いを行っている。終末期支援は行っていないが、事業所での対応が困難になった場合は、安心して過ごすことができる他施設等への移行を支援している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の勉強会を実施し、複数回実施している。	看護師が主体となって勉強会を実施している。糖尿病や窒息時の対応など、現場の介護職員の声から勉強会の議題を決めて実施している。	応急手当や初期対応の勉強会は行われているが、集団生活で起こりやすい感染症や食中毒等についても職員が的確に予防やまん延防止の対応ができるよう定期的に勉強会を実施していくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施しており、消防署立会い指導を受けている。地域の消防団にも参加依頼しており、近隣の事業所とは災害ネットワークを築いている。	年2回火災を想定した避難訓練を実施しており、災害時に備えて備蓄もしている。近隣の他事業所とは災害時に協力し合えるように災害ネットワークを構築している。地域消防団団長から事業所内の様子を見てもらい、今後、地域消防団と共に災害時の訓練を実施する予定である。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへの声掛け時はその人にだけ聞こえるように耳元で伝えたり等、人格を尊重した声掛けを心掛けている。	排泄介助や入浴介助については利用者一人ひとりの希望を確認し、希望に応じて同性介助を行っている。時には方言を使ってその人にわかりやすい言葉で声かけするなど、一人ひとりを尊重した対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どこに行きたいか、何を着たいか、何を食いたいかなど飲みたいか、今か後でか等その都度聞いてまたは選択肢を用意して自己決定ができるように心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出かける、作業をする、ゆっくりする等どう過すか聞き実施している。ご利用者の意向で把握していることから、職員間で話し合い支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着慣れた服、帽子、靴、靴、スカーフ等を自宅から持って来ていただき、身支度の際にその人らしさに合わせて支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けし献立、食材準備、盛り付け、皿洗い(拭き)を手伝って頂いている。	献立作成から食材の買い物、食事の準備、後片付け等、利用者の出来ることを一緒に行ってもらっている。利用者に食事を楽しんでもらえるよう彩りある野菜を使って見た目にもおいしそうに、かつ温かく食べやすい形態の食事提供を心がけている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し、摂りやすい水分を把握してこまめに提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けだけの方、声掛けし見守りをする方、誘導・指示・見守りをする方と、力に応じて手伝いをしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中から夜間にかけて、失敗のない方については、布パンツ対応を検討し、また夜間パット確認させて頂いている方は開眼されている際トイレの声掛けをしている。	「24時間シート」等を活用して利用者一人ひとりの排尿パターンや水分摂取量をチェックしており、その人に応じて排泄の自立に向けた支援をしている。このような支援により、紙パンツの使用から、布パンツと尿取りパットの使用へと状態が改善したケースもある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をあまり摂りたがらない方には、水分の味を変えこまめに促している。内服薬にてコントロールしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望(いつ入りたいか)を伺い、入浴して頂くよう心掛けているが実施できていない事もある。	利用者の希望に沿った入浴支援を行っている。現在は午後からの入浴のみだが、希望があれば他の時間帯にも対応できるように体制を整えていく意向である。近くにある温泉へ出かけて入浴を楽しんでもらうこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じて表情を見て察する事ができるように心掛けている。居室以外にも居間や洋間で休めるようソファを用意している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を確認し把握するよう努め、変化時にすぐ気付けるよう状態把握(バイタル・表情等)している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得られた情報をもとに、関わり楽しみ事を聞きそのことをできる限り実践できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>2日毎の買い物には毎回希望者が同行し、それ以外でも希望があった際等は出かけている。</p>	<p>食材の買い物や近場の温泉へ出かけるなど、日常的に外出している。利用者の希望を聞きながら外出支援を行っているが、希望者以外にも声をかけて外出の機会を設けている。入居前に毎日の散歩が日課であった利用者には継続して散歩ができるように支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご利用者の力に応じて、お金を所持し支払いの際に見守り必要に応じて指示をするなどしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を掛けたい時は、その都度電話をかけている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>花等季節を感じられるものを置いている。廊下には物を置かない、照明はオレンジ色を多く取り入れており、柔らかい明るさになるように心掛けている。</p>	<p>共用空間は利用者が安全に生活しやすいように整理整頓されており、床暖房を活用して心地よい室温を保つように配慮されている。食堂は温かみのある雰囲気になるように照明をオレンジ色と白色の電球を使うなど、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間で一人で休んだり、洋間で2人で過したりと気の合ったご利用者で思い思いに過ごせている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今までの住まいから家具を持ち込み、馴染みのしつらえができるようにしている。</p>	<p>居室の家具は利用者にとって馴染みの物を持参してもらうように家族に働きかけている。利用者自慢の家具が持ち込まれるなど、その人らしい居室づくりに努めている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>便所やお風呂に場所を示す貼り紙をしており、目印や認識ができていくことが多くある。</p>		